

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ: <http://www.library.city.kawasaki.jp/>

中原図書館、まもなく移転開館!

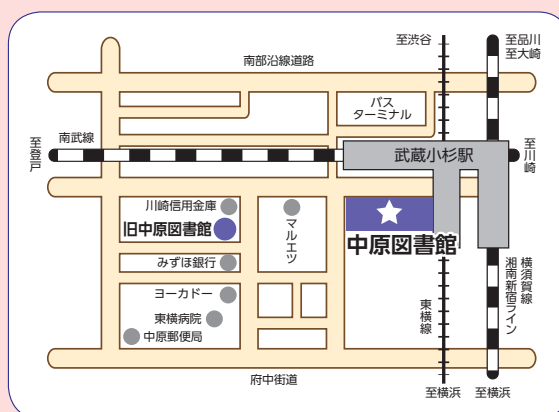


3か月の休館期間を経て、中原図書館がいよいよ4月2日午前10時から利用開始となります。
今までより駅に近く、新しく始まるサービスも！
・・・そんな「新」中原図書館をご紹介します。

新

中原図書館

川崎市中原区小杉町3-1301 武蔵小杉駅南口地区西街区再開発建物内 5・6階



ますます使いやすく!

新しい中原図書館は、これまでより駅に近く、武蔵小杉駅からエスカレーターで直接ご来館いただけます。延べ床面積はこれまでの約2倍。書棚と書棚の間もこれまでより広くなり、ゆったりと本を探していただけます。開館時間も平日は2時間延びて夜9時までとなりますので、お仕事帰りの利用もしやすくなります。

資料も充実!

これまでの川崎図書館・多摩図書館に加え、中原図書館でもCDコーナーを設置します。また、利用者用インターネット端末やご利用いただけるデータベースの数も増加し、ビジネスなどでの調べものへの対応も強化しました。



●館長からひとこと●●●

新しい中原図書館は東横線武蔵小杉駅に直結したビルの5・6階という好立地で、平日はこれまでより2時間長く夜9時まで開館します。

床面積や収蔵可能数も増え、セルフサービスで貸出処理ができる「自動貸出機」を導入するなどより使いやすくなります。

市民の皆様の読書や生涯学習、課題解決などを支える拠点として高度化・多様化するニーズに応えられる、川崎らしい特色ある図書館をめざしてまいりますので是非ご利用ください。

予約資料の受取りや貸出処理をご自身で

ご用意ができた予約資料は「予約本受取コーナー」に並べられ、ご自身で本を探し、貸出処理をしていただけます。
全ての資料にICタグを貼ってありますので、予約された資料以外も館内に8台設置した「自動貸出機」を使ってご自身で簡単に貸出処理を済ませていただくことができます。
混雑している場合などは大変便利です。是非ご利用ください。



ところで自動貸出機って どんなもの？



バーコードリーダーで利用者カードのバーコードを読み取る。

↓
借りたい本を読み取り用アンテナ（左写真A）の上に置く。

↓
画面で借りたい本の冊数を入力して「OK」を押す。

↓
機械が本のデータを読み取り、結果を画面に表示。

↓
表示内容を確認して、間違いがなければ「貸出」ボタンを押す。

↓
これで貸出は終了です。「印刷」を押すとレシート出力が可能です。

平成25年度中には市内すべての図書館に設置

「自動貸出機」は、中原図書館以外の市立図書館各館にも平成25年度中に設置します。
これにより各館でも利用者ご自身で貸出処理をしていただくことができるようになります。
また、併せて「BDS」（ブックディテクションシステム）も導入し、蔵書管理の徹底を図ります。

一足早く、新しい中原図書館を見てみませんか？

中原図書館では開館に先立って館内をご覧いただく「内覧会」を開催します。新しい図書館にいち早く入っていただけるほか、通常非公開のバックヤードも一部ご覧いただく予定です。日程、申込方法は以下のとおり。

日 時：平成25年3月27日（水） 午後2時30分～ 3時30分

人 数：川崎市在住の方 50名

申込方法：往復はがきに参加希望者（1枚のはがきで2名まで）の氏名・住所を記入のうえ、次の住所まで。

〒210-0004 川崎市川崎区宮本町6 明治安田生命ビル3階

川崎市教育委員会生涯学習推進課「中原図書館内覧会」係

締 切：平成25年3月18日（月）当日消印有効

定員を超えた場合は抽選となります。

※当日は館内の見学のみとなります。貸出・登録などは4月2日からご利用いただけます。

東高根にBMポイント新設

昨年12月から、自動車文庫に東高根ポイントが新設されました。
毎月第1・3火曜日の午後に巡回しています。
詳しい開設場所や巡回日時は図書館で配布しているチラシや図書館ホームページなどでご確認ください。

川崎市立図書館ホームページ

<http://www.library.city.kawasaki.jp/riyouhs.html>

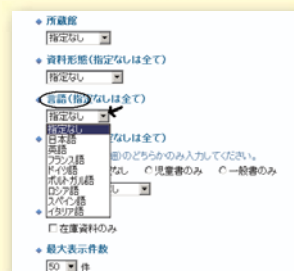
※長尾台ポイントは平成12年11月をもって巡回を終了いたしました。



検索画面に絞り込みの項目を追加しました

以前からご要望が多かった、「言語区分」「利用対象」での絞り込みが可能になりました。このうち今回は「言語区分での絞り込み」についてご紹介します。

- ①「蔵書検索 検索条件指定」の画面の「言語」という項目をプルダウン表示(写真1)してください。
 - ②指定できる言語の一覧が表示されるので、絞り込みたい言語を選んで下さい。
現在日本語のほか主要7言語からの選択が可能です。
 - ③その他の検索項目が正しく入力されているのを確認後、「検索開始」ボタンを押してください。
- ※中国語・韓国語で書かれた資料の検索は各言語のページの検索メニューからお願いします。



たとえば英語で書かれた絵本を探したい時は、

入力画面の「分類記号」の欄に「E」（絵本の分類記号です）を入力。

絞り込みの項目「言語」で「英語」を選択。

検索ボタンを押す。

これで「英語」で書かれた「絵本」を検索することができます。

写真1
上：館内検索機
下：ホームページ



フロンターレ選手が選ぶ「わたしの1冊」

わが川崎のサッカー J1 チーム「川崎フロンターレ」と図書館との合同企画です。第11回目は、大島選手が選ぶ1冊を紹介します。

『夜明けの街で』

東野 圭吾/著 【角川書店】 2007年刊

《内容紹介》

「不倫する奴なんてバカだ」と思っていた主人公は、泥酔した同僚を家まで送ったことがきっかけで彼女とつきあうようになる。お互い割り切った関係、のはずだったが次第に妻との離婚まで考えるように…。妻子ある中堅社員の『僕』と、若くて独身の派遣社員『秋葉』の関係が比較的淡々と語られる中、やがて見え隠れし始める15年前の未解決事件の影。

KAWASAKI
Frontale

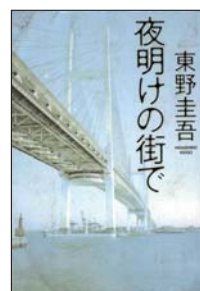


【MF30 大島僚太選手】

巧みなボールさばきでマーカーを抜き去るドリブル突破と精度の高い展開力を誇る俊英MF。高卒2年目ながら激戦の中盤で着実に出場機会を得て日々成長している。好きな読書のジャンルは小説で、ミステリーから恋愛小説まで幅広く読みこなす。読書を通じて様々な人物の考え方や人生観を吸収し、経験という糧にしている。

大島選手より

この本は小林選手から「面白いよ」と薦められたのがきっかけです。小説はよく読みますが、今回初めてミステリー(!?)に(恋愛小説でもあると思いますが)挑戦しました。読み進めていくと、多くの人や自分の周りの日常にある風景が良く描かれているので、自分もこの物語の中にいるんじゃないかと思えるほど、はまってしまった小説でした。



川崎市の歩みと未来の展望 (3)

「川崎市史」刊行と成果について (1)

法政大学名誉教授
村上直

川崎市における市史編さんは、昭和13年(1938)刊行の産業編(徳川時代)と翌14年刊行の通史編の二巻がはじめです。全体は、通史編・交通編・産業編・寺社教育編の四部門の構想によるスタートでしたが、前年(昭和12年)に日中戦争が勃発し、政治情勢が新たな段階に突入したため、刊行が途中で取り止めになったといわれています。

最初の産業編は、徳川時代を中心に、「新田開発」と「砂糖製造」という項目で、池上家文書を中心に、池上太郎左衛門幸豊の足跡によりながら編さんされた、資料編としても貴重な内容です。次の通史編は、市史編さんをまとめていく部門です。

「川崎市史」通史編の刊行

通史編の緒言において「川崎市が、その接続する四か町村、即ち、稲田町、生田村、向丘村、宮前村を合併したことにより、昭和十三年十月一日を以って、永遠に橘樹郡の名が消滅した」とあります。つまり、古代から近代まで武蔵国や神奈川(明治元年以降)の郡名として、存在していた橘樹郡は、川崎市が成立(大正13年)から昭和2年に田島町、同8年に中原町、同12年には高津町、橘村と日吉村の一部、同13年には稲田町、向丘村、宮前村、生田村を編入したことによって、郡名が消滅したのです。かつての橘樹郡は、川崎市のほぼ全域と横浜市の一部を含む広い地域を指していました。そして、川崎市域は、翌昭和14年になると、隣接の柿生村外一か村組合(岡上村)＝神奈川(都)筑郡＝が編入されることによって、現在の川崎市域が成立することになったのです。

通史編は、全体が974頁で、(1)総論、(2)史前時代、(3)奈良朝前後、(4)平安・鎌倉[初期]時代、(5)南北朝より北条時代まで、(6)徳川時代、(7)明治新世より以降、の7章の構成になっています。このうち、523頁が徳川時代、つまり江戸時代となっています。まさに日本近世史が

中心になっている構成です。

徳川時代の内容は、徳川家康の江戸経営にはじまり、東海道と川崎宿、小泉次大夫吉次、田中兵庫(丘隅)、池上太郎左衛門幸豊、幕末の助郷、外国人遊歩区域、和宮の降嫁、将軍家茂の上洛、農兵隊の組織などの項目があげられています。

明治新世より以降の内容では、明治初頭の交通施設や川崎町の出現、工場招致の黎明、それに町村合併などの資料が収録されています。これらの項目や内容は、現在の自治体史の構成とはかなり異なっていますが、人物としては、とくに小泉、田中、池上が取りあげられたことが、地域の歴史的人物として注目されると思います。

通史編の総論において、とくに「歴史の舞台は、必ずしも、中央、即ち、政権の集注した土地のみに限ったものではない」と記しながら、川崎は「江戸時代に於ける文化の交渉や影響についても、中央より僻遠な他の土地とはちがって、迅速にその効果が現れるという利もあった」として、川崎市域の郷土的な特質を指摘しています。

「川崎市史」の編者

この二巻の編者は中道等(なかみち・ひとし)[1892～1968]です。宮城県出身で、独学で歴史・考古学・民俗学を学び、柳田国男や沢村敬三の知遇を得て昭和10年から川崎市史編さんの囑託となりました。そして二巻の刊行に尽力しましたが、のちに横浜市民博物館長や、郷土史誌の「郷土神奈川」の編集委員などを務めております。

※前号の「川崎市の歩みと未来の展望(2)」の記載で、末尾に「市域も、現在とは異なって今の川崎区と幸区の一部です」と記しましたが、「川崎区と幸区と中原区(上平間・中丸子・下沼部)の一部」に訂正いたします。



日本地名研究所編『川崎の町名』所収

村上先生のコーナーが新設されます

当コーナーをご執筆いただいている村上直先生からご寄贈いただいた資料や先生ご自身の著書を集めた「村上文庫」コーナーを中原図書館に新設いたします。川崎市史をはじめとして川崎市の歴史に関する著書・編書も多い先生の研究・著作活動を支えた資料を手にとっていただけますので是非ご利用ください。



金色の「村上文庫」シールが貼ってあります。



編集・発行 川崎市立中原図書館

〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417 TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011) 高津図書館(822-2413) 麻生図書館(951-1305) 大師分館(266-3550) 橘分館(788-1531)
幸図書館(541-3915) 宮前図書館(888-3918) 田島分館(333-9120) 柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932) 多摩図書館(935-3400) 日吉分館(587-1491) 菅覧所(946-3271)